

第2次河南町子ども読書活動推進計画(概要)

計画策定にあたって

国や府の推進計画をもとに、子ども一人一人に合った読書活動が行えるよう、「第2次河南町子ども読書活動推進計画」を策定し、環境整備の実現を含め総合的に推進していくこととする。

第1章 第1次推進計画の総括

1. 子どもが本と出会うために(きっかけづくり)

ブックスタート事業や健診での読書支援、各施設での読み聞かせや保護者へ絵本の読み聞かせの大切さを伝えるなど、啓発に努めた結果、絵本の貸出しも多くの親子に利用された。

2. 子どもが本と親しむために(本を読むことの習慣化)

町立図書館や各学校図書館において、子どもたちが利用しやすい環境を整備。また、読書感想文コンクールの実施を継続し、読書の習慣の育成に力を入れた。学校での「朝の読書」が定着している。

3. 子どもが目的に応じて読む力をつけ、本から学ぶために(読む力、考える力の育成)

図書館の蔵書を増やし、展示を工夫し広報を利用するなど、子どもたちが読書に親しむ環境づくりに努めた。小学校では並行読書の習慣が進んでおり、教科学習に関連する本を選定するなど工夫をした。

4. 子どもの読書環境づくりを支える人と体制をつくるために(人材育成、体制づくり)

『子ども読書週間』に合わせて「図書館まつり」を実施。また、司書研修を受けるなどして図書館司書のレファレンス能力の向上に努めた。

第2章 第2次推進計画の基本的な方針

第1次計画で掲げた、発達段階と生活の場(※家庭・学校・地域等の子どもが生活をする場)に応じた取組を基礎とし、その成果と課題、また、第4次大阪府子ども読書活動推進計画の基本方針をふまえて、次のとおり基本方針を定める。

【基本方針】

発達段階や生活の場に応じて、全ての子どもが読書への興味・関心を高め、必要な知識を得るとともに、自ら楽しみながら読書活動を行う事ができる環境整備をするために、町全体で取り組みます。

【2つの視点】

1. 発達段階の特徴に沿った読書活動の推進
2. 読書活動ができていない子どもへの読書環境の整備

対象: おおむね18歳以下の子どもと、子どもを取り巻く住民や団体
実施期間: 令和5年度から令和9年度までのおおむね5年間

第3章 子どもの読書環境の現状と課題

1. 乳幼児期における読書環境の現状と課題

(1) 健診時の取組

- ①ブックスタート事業 ②健診での読書支援

《課題》・おすすめ絵本リストのリニューアル

・月齢に応じた絵本コーナーの充実

・乳幼児期における読書環境のさらなる整備

(2) こども園、おやこ園での取組

《課題》・絵本や保護者向けの図書への充実

・子どもと保護者が、家庭でも絵本を楽しむことができる環境整備

・絵本の読み聞かせの参加者への、呼びかけなどを工夫

2. 小・中学生における読書環境の現状と課題

- ①学校図書館の資料整備 ②読書活動(朝の読書)

- ③学校図書館の運営 ④かなん読書感想文コンクールの実施

- ⑤家庭文庫に対し地域活動を支援

《課題》・利用者にあった図書の充実

・各施設は図書館や学校などと連携し、子どもと本をつなぐ活動を進める

・読書感想文コンクールなどをきっかけに、自ら進んで本を読む習慣づけを引き続き醸成する

3. 図書館での読書環境の現状と課題

- ①乳幼児期、学齢期への取組

乳幼児期・・・絵本の配布、各種健診時のおすすめ絵本リストの配布

学齢期・・・「図書館まつり」などの行事の実施、社会見学や職業体験の受入れ、小学校への図書館司書派遣によるブックトークの実施、巡回学級文庫の実施、巡回学級通信「おまめちゃん」と夏休み読書推進用「おすすめ100+3」の発行

- ②障がいのある子どもへの取組 ③図書館資料の整備

- ④郷土資料コーナーの整備

- ⑤本のリクエスト、レファレンス(本の調査相談)の実施 ⑥広報啓発活動

《課題》・各学校と図書館システムの統一化とネットワークの構築

・所蔵を共有し、各学校にない本を図書館から移管するなど、多様な本を提供し利用促進を図るための連携の強化

・さまざまなバリアフリー資料を収集した「りんごの棚」コーナーの設置

・リクエストやレファレンスの受付を広報やホームページなどで周知

第4章 子どもの読書活動推進のための具体的方策

1. 子どもが本と出会うために(きっかけづくり)

- ①ブックスタート事業の継続 ②健診での読書支援の継続

- ③こども園での取組の充実 ④おやこ園での取組の充実

名作だけにこだわらないリスト作りや、古い本を整理し新しい本を増やししながら、絵本コーナーの充実などで絵本の楽しさが伝わるよう働きかける。

2. 子どもが本と親しむために(本を読むことの習慣化)

- ①資料の充実、環境整備 ②読書の習慣づくり ③学校図書館の活性化

- ④かなん読書感想文コンクールなどの継続

- ⑤図書館における地域や施設での活動支援

図書委員会活動等を活用して、子どもたち自身が学校図書館の魅力を発信できるように促し、かなん読書感想文コンクールを継続して実施し、国語等の教科学習と連携することで本と触れ合う機会を増やす。

3. 子どもが目的に応じて読む力をつけ、本から学ぶために(読む力、考える力の育成)

- ①読書活動に対する子どもへの支援

- ②読書活動に障がいのある子どもへの支援

- ③図書館資料の充実、展示の工夫

- ④子どもが目的に応じて本を選ぶための支援 ⑤連携、広報啓発

読み聞かせ会のほか、図書館ツアーや巡回文庫、ブックトークなどで子どもたちにアプローチしていく。対象年齢に合わせた閲覧コーナーの配置を工夫したり、各機関と連携して図書館の利用促進につとめる。

4. 子どもの読書環境づくりを支える人と体制をつくるために(人材育成、体制づくり)

- ①子どもの読書活動の魅力と重要性に関する普及・啓発

- ②子ども読書活動を支援する人材の確保とスキル向上

「図書館まつり」を継続し、広く住民に図書館と読書活動の魅力を伝える。

第5章 子どもの読書活動推進計画の推進のために

1. 計画の位置づけ 2. 推進体制の整備 3. 財政上の措置など

【参考資料】

1. 取組例「R7年度 図書館まつり」
2. 子どもの読書活動の推進に関する法律